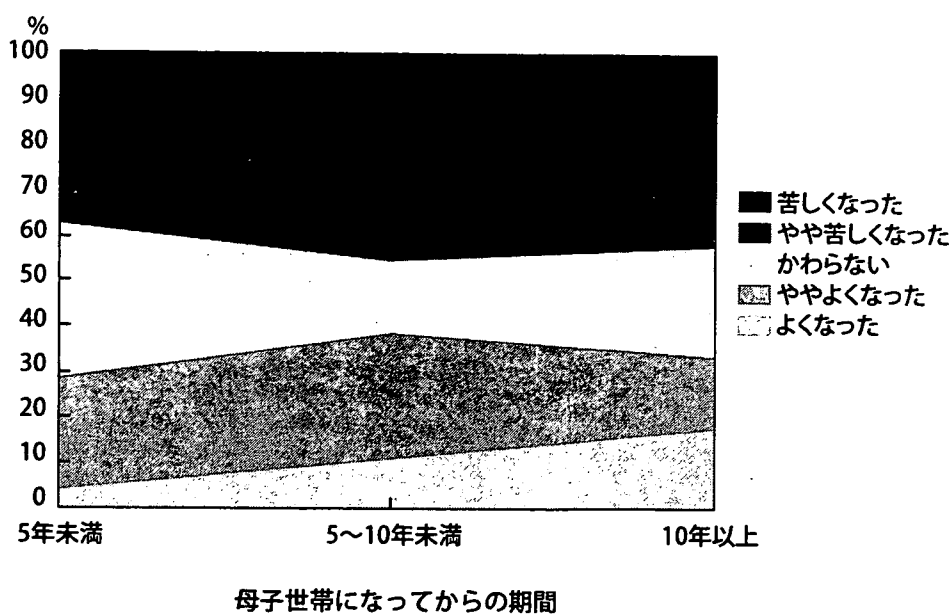


図3 母子世帯になってからの生活感

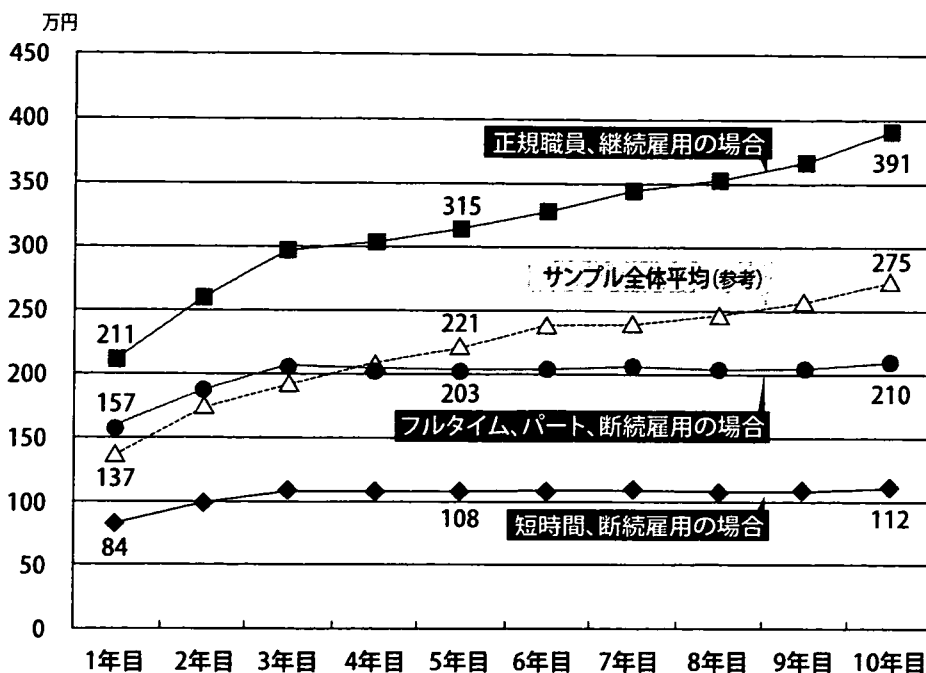


出所:『母子世帯の生活の変化調査結果(集計表)』

データの出所は、筆者らが母子世帯の当事者団体の協力を得て2006年に行った「母子世帯の生活の変化調査²」である。本調査は、回答者に過去8年間の所得を書いてもらうことにより、1人1人の所得がどのように変化したのかを確かめることができるよう設計されている。回答者の約3分の1が母子世帯となってからの期間が5年未満、3分の1が5年から10年未満、残り3分の1が10年以上であった。まず、母子世帯となったところに比べて現在の暮らしの状況を尋ねると「よくなった」とするのが34%、「苦しくなった」とするのが42%と「苦しくなった」と回答する人のほうが若干多い(図2)。これを母子世帯となってからの期間別に見ると、「よくなった」とする人が年数がたつにつれて多くなるのと共に、「苦しくなった」という人も多くなるのがわかる(図3)。つまり、生活感は一極化し、一概に全ての、または多くの、母子世帯の生活状況が改善するとは言い難い。「苦しくなった」とした人に、その理由を聞いたところ、最も多く挙げられた理由は「子どもが大きくなってお金がかかるようになった」(複数回答で72%)で、二番目に多かった「勤労所得が下がった」(同42%)を大きく上回っている。

次に、母子世帯となってからの期間と勤労所得との関係を見ると、時間がたつにつれて勤労所得が上昇する傾向が認められるものの、伸び率が大きいのは3年目までで、3年目以降は所得に伸び悩みがみられることがわかった。勤労所得に大きく影響するのは、母子世帯となってからの期間というよりも、雇用形態や勤続年数(勤続年数が所得に反映されるような職場にある場合)であり、雇用形態に改善が見られない限り、所得の大幅な上昇は望めない。また、最終学歴や母子世帯となった年齢といった所与の条件も勤労所得に影響する。仮に、母子世帯となった時の年齢が30歳、その時の末子が3歳、高卒の人のモデルケースの所得を推計すると(図4)、雇用形態がよい場合(正規で継続雇用が続けられる場合)は、ある程度勤労所得が増加するものの、悪い場合(フルタイム・パートや、短時間勤務、断続雇用)は殆ど増加しないという結果になった。また、よい場合においても、その上昇度合いは必ずしも大きいものではなく、児童扶養手当の廃止の所得制限(365万円)に母子世帯となって5年目の時点で達することができるのは例外的なケースであることがわかった。

図4 モデルケース：母子世帯になった年齢＝30歳、末子3歳、高卒の場合



出所：阿部(2007)

最後に、家計支出について、母子世帯となった頃と現在を比べたところ、教育費では全体の74%、食費では58%の人が「増えている」と答えている(図5, 6)。これらの分析結果を総合すると、母子世帯の経済状況は、母子世帯となった当初に比べると、勤労所得は最初の3年ほどは伸びるものの、その後は伸び悩み、逆に子どもの成長に伴い支出が増加することによって、生活が苦しくなる世帯が多いことが示唆される。

4. おわりに

これらの調査結果から、母子世帯の経済状況が「5年間」で大幅に改善するとは考えにくい。母子世帯となった当初、多くの母子世帯は住居も仕事もない状態であるが、たとえ、そこから抜け出したとしても、現在の日本の労働市場において、女性1人で、子どもの成長に伴って増加する支出に見合う所得を得ることは難しい。日本の母子世帯の多くが母子扶養手当を受給しているのは、母親の労働インセンティブや勤労所得を上げようという意識の欠如によるもので

はなく、一生懸命働いても所得制限を超えるような所得を得ることができないからである。このような雇用情勢の中で、満額受給の有期化のように、制裁的な措置によって母親の行動を変化させようとしても、変化のしようもない。

母子世帯の所得を増加させる最も有効な手段は、雇用形態の改善である。特に、正規の職に就けるか否かが将来的な所得の上昇見込みに大きく反映する。母子世帯の母親が、正規職に就く割合は、年数とともに上昇するものの、学歴、高年齢など不利な条件を背負った人々にとっては、これは簡単なことではない。しかしながら、母子世帯の母親の就労状況は悪化しており、「全国母子世帯等実態調査」でみると、臨時・パートは、1993年の27.2%から2003年の40.7%まで増加、逆に常用雇用は46.3%から32.5%まで減少している。筆者らが行った調査においても、例えば母子世帯となってから10年目であっても、短期、フルタイム・パートである人が4割近く存在した。これらの人々が正規職に就けるようにもっていく有効な政策を先行するべきである。

政府は、母子世帯の就労支援策を強化している

図5 母子世帯になったところに比べて、現在の教育費は…

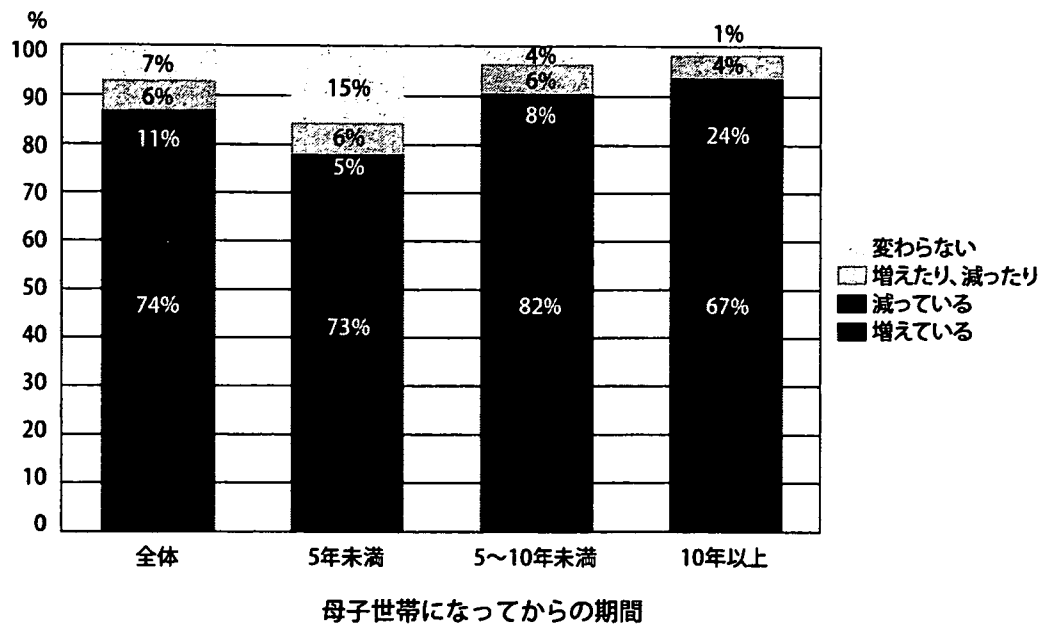
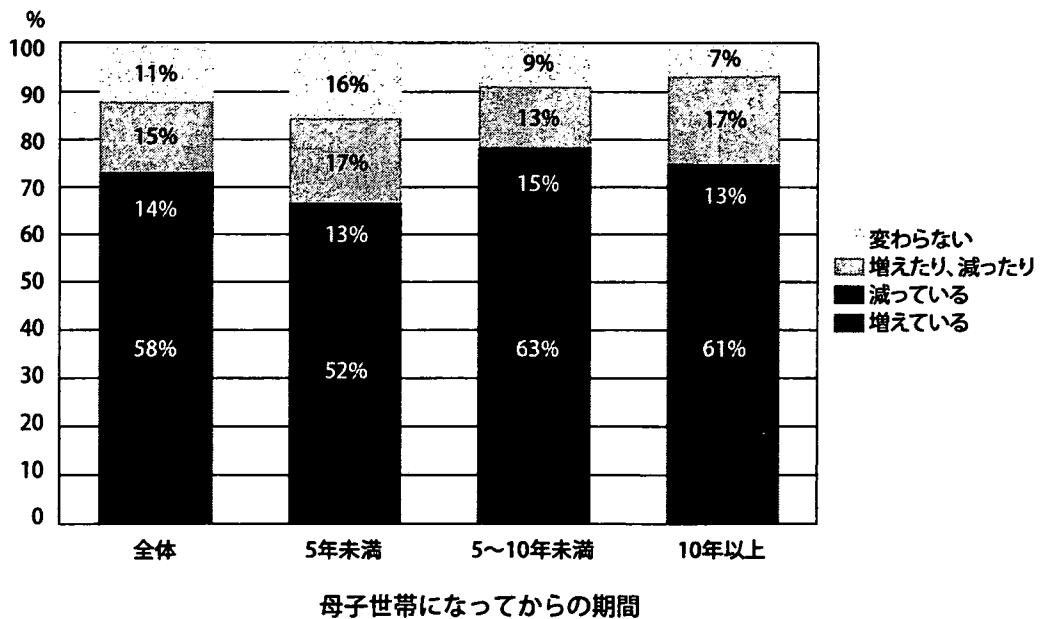


図6 母子世帯になったところに比べて、現在の食費は…



が、これらが、実際に彼女らの勤労所得や雇用条件の改善にどれほど有効であるのかを検証する必要がある。就労支援策が成果をあげれば、母子世帯の所得はおのずと上昇し、児童扶養手当の所得制限を超えるはずであり、「5年」というタイムリミットを設けなくても「自立」していくはずである。しかし、どのような就労支援策であっても、全ての人に有効であるわ

けではない。児童扶養手当の有期化は、就労支援の便益を得ることができなかつた人々と子どもたちの生活水準をさらに悪化させたり、彼女らを雇用条件の悪い職や二つ、三つの職を兼業するといった状況に追い込む可能性がある。

著者が、上記の調査結果を母子世帯支援団体の会員の方々の前で報告した時の1人の母子世帯の

母親の発言が印象深い。彼女は、母子世帯となつてから3年間ほどは所得が上がるといった傾向に頷きながらも、「でも、そうやってがむしゃらに働いていると、だいたい5年目くらいで身体が壊れてしまうんですよね」とご自身の経験を語られた。

少子化の時代において、母子世帯に対する政策は、まず、母子世帯に育つ子どもの健全な育成をその主目的にするべきである。そのためには、母子世帯とそのほかの有子世帯との大きな格差は是正されなければならない。そして、母子世帯の母親は、育児を1人で背負っていることを、改めて評価するべきである。子育て支援として、仕事と育児の「両立」を可能にする政策の必要性が認識されて久しいが、母子世帯の母親は「稼ぎ主」「家事」「育児」の3つの仕事を1人でこなさなければいけないのである。たとえば、収入がよくても勤務時間が長い職や、二つ、三つの職を兼業をすることによって経済的な「自立」を果たしたとしても、それが子どもの健全な育成や母親の健康に害を及ぼすのであれば、それは望ましい「自立」とは言えない。繰り返すが、17人に1人の子どもは母子世帯に育っているのである。彼らの「少なくとも経済面での『父親役』を政府が担う」くらいの心構えがあってもよいのではないか。■

《注》

- 1 2003年値の推計。2003年実施の「全国母子世帯等実態調査」によると母子世帯数は122.5万世帯、同年の児童扶養手当受給者数は87.1万人で約71%。また、2002年にしんぐるまざーずふおーらむが行った『母子家庭の就労実態に関する調査』でも同じく71%
- 2 調査は、母子世帯を主な会員とする民間団体8団体(以下、当事者団体とする)に、調査票の配布・回収を依頼して行われ、平成18年8月から9月にかけて各団体の会員および各団体が実施する講座・講演などの参加者に郵送または手渡して配布・回収された。調査対象は、母子世帯およびかつて母子世帯であった世帯(以下、寡婦世帯とする)である。

《参考文献》

- 阿部彩・藤原千沙・田宮遊子(2006)「母子世帯の生活変化調査(当事者団体調査)の結果報告」社会政策学会第113回大会配布資料。
- 阿部 彩(2007)「母子世帯になってからの期間と勤労所得」厚生労働科学研究費補助金政策科学推進研究事業「日本の社会保障制度における社会的包摂(ソーシャル・インクルージョン)効果の研究」平成18年度報告書 2007.3.31、p.325-344 阿部彩(2005)「第四章 子供の貧困—国際比較の視点から—」国立社会保障・人口問題研究所編『子育て世代の社会保障』東京大学出版会 2005.4.28, pp.119-142。
- 阿部彩・大石亜希子(2005)「第五章 母子世帯の経済状況と社会保障」(共著)大石亜希子『子育て世代の社会保障』東京大学出版会 2005.4.28, pp.143-161。
- 大石亜希子(2005)「母子世帯の経済状況と2002年改革の評価」『生活経済政策』no.103, August 2005, pp.21-25。
- 厚生労働省(2005)「平成15年度 全国母子世帯等調査結果報告」(<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2005/01/h0119-1.html> last access 07/02/07)。
- 厚生労働省編(2006)「平成16年国民生活基礎調査」厚生統計協会。
- OECD(2006)“Economic Survey of Japan 2006,” <http://www.oecd.org/>

V. プロジェクト進行記録

V. プロジェクト進行記録

1. 研究会

①平成19年4月17～24日

ピーター・サンダーズ氏 (New South Wales 大学教授、オーストラリア) 来日

18日 研究会：「オーストラリアの所得格差・貧困の動向」

参加者名：有森三木 (日興フィナンシャル・インテリジェンス(株))，星野信也 (東京都立大学名誉教授)，和気康太 (明治学院大学社会学部福祉学科)，佐藤裕亮 (厚生労働省)，木村恭一 (厚生労働省)，京極高宣 (国立社会保障・人口問題研究所長)，阿部 彩，西村幸満，菊地英明

19日 研究会：「日豪比較可能なデータの検討」

参加者名：阿部 彩，菊地英明

24日 研究会：「オーストラリアの貧困・剥奪」 京都 同志社大学

参加者名：埋橋孝文 (同志社大学教授)，室住眞麻子 (帝塚山学院大学人間文学部教授)，阿部 彩，同志社大学大学院生

②平成19年7月27日 10:00～12:00

内容：「社会保険の未加入・未納問題研究会」

鈴木 亘氏 (学芸大学教授)，周 燕飛 (研究協力者)，阿部 彩

③平成19年11月5日 (月) 13:00～15:00

報告1：山村りつ氏 (同志社大学) 「精神障害者への就労支援と障害者自立支援法
—就労支援事業移行の実態調査を通して—」

報告2：中原 耕氏 (同志社大学) 「『障害者』の就労と所得保障—その現状と問題点—」

参加者名：上枝朱美 (研究協力者)，西山裕 (国立社会保障・人口問題研究所 政策研究調整官)，勝又幸子 (同研究所情報調査分析部長)，金子能宏 (同研究所社会保障応用分析研究部長)，泉田信行 (同研究部第1室長)，川越雅弘 (同研究部第4室長)，阿部 彩，菊地英明

④平成19年11月22日 10:00～12:00

報告：阪東美智子氏 (国立保健医療科学院)

「日本におけるホームレスと低所得者住宅政策」

参加者名：山田篤裕 (分担研究者)，上枝朱美，周 燕飛，西山 裕，勝又幸子，阿部 彩，西村幸満，菊地英明，稲田七海 (国立社会保障・人口問題研

究所 客員研究員)

⑤平成 19 年 12 月 18 日 13:00~15:00

報告：菊地英明氏 (分担研究者)

「ベーシック・インカム論がわが国の公的扶助に投げかけるもの
ー就労インセンティブをめぐるー」

参加者名：山田篤裕, 上枝朱美, 周 燕飛, 西山 裕, 勝又幸子, 金子能宏, 野口
晴子 (国立社会保障・人口問題研究所 社会保障基礎理論研究部第 2 室
長), 阿部 彩

⑥平成 20 年 1 月 25 日

報告：山田篤裕氏 (分担研究者) 10:00~12:00

「国民年金未納問題：就業形態の多様化と申請免除利用」

参加者名：上枝朱美, 周 燕飛, 新居秀夫 (厚生労働省), 綾 賢治 (厚生労働省),
西山 裕, 阿部 彩, 西村幸満, 菊地英明

⑦平成 20 年 2 月 15 日 10:00~12:00

報告：岩永理恵氏 (神奈川県立保健福祉大学)

「保護基準と実施要領の構築にみる<最低生活>ー生活保護制度の歴史的検討ー」

参加者名：大石亜希子 (千葉大学法経学部准教授), 上枝朱美, 西山 裕, 阿部 彩,
菊地 英明, 千葉大学院生

⑧平成 20 年 3 月 25 日 14:30~16:30

研究会：「日本の貧困動態研究の今： これまでにわかったこと、これからの課題」
(パネルデータ・プロジェクトとの合同研究会)

報告： ①パネルデータを使った日本の貧困研究の比較 (阿部 彩)

②日本の貧困動態研究：これまでにわかったこと、これからの課題
ディスカッション (ディスカッサント全員)

参加予定者名：岩田正美 (日本女子大学人間社会学部教授), 濱本知寿香 (大東文化大学
経済学部准教授), 石井加代子 (医療経済研究機構 研究員), 山田篤裕,
阿部 彩, 厚生科研「低所得者プロ」メンバー, 厚生科研「パネルデータ・
プロジェクト」メンバー, 厚生労働省職員他

2. 調査・データ整備関連

1) 掛川調査データ整備

平成 19 年 8 月 データ使用申請を国立社会保障・人口問題研究所に提出

| | |
|---------|---------------------|
| | 研究委員会を経て承認 |
| 9～11月 | 調査票の搬出・搬入 |
| | 調査票の整理、マッチング作業 |
| 12月 | データ入力会社の選択、発注、打ち合わせ |
| 平成20年1月 | データ入力開始 |
| 3月 | データ納品、内容確認、集計表の作成 |

2) 児童必需品意識データ整備

| | |
|---------|----------------------|
| 平成20年1月 | 必要項目の検討 |
| 2月 | データ整備の発注先検討、発注、打ち合わせ |
| 3月 | データ納品 |

Left Out and Missing Out: Towards New Indicators of Deprivation and Social Exclusion

SIPRC

Peter Saunders

Social Policy Research Centre
University of New South Wales
Sydney 2052, AUSTRALIA

Poverty: The Need for a New Conceptual Approach

SIPRC

'The lack of agreement about how to set poverty lines has undermined their credibility, and research has become disconnected from the actual experiences and living standards of poor people ... Poverty research has also not examined how people are excluded from full participation in society, yet participation is a major theme in the welfare reform policy agenda ... The study is based on the premise that poverty is not just low income, but is multi-dimensional, and that its measurement must be grounded in the actual living standards and experiences of poor people, including the underlying dynamics of process and causality'.

The 'Left Out and Missing Out' (LOMO) Project

SIPRC

- ◆ Undertaken in collaboration with leading welfare agencies
- ◆ Stage I: Focus groups with welfare services users and agency staff to identify the main dimensions of 'a decent life'
- ◆ Stage II: A national postal survey (CUPSE) and a smaller (client) survey of welfare agency users asking about 'the essentials of life'
 - What are they?
 - Who does not have them?
 - Who cannot afford them?

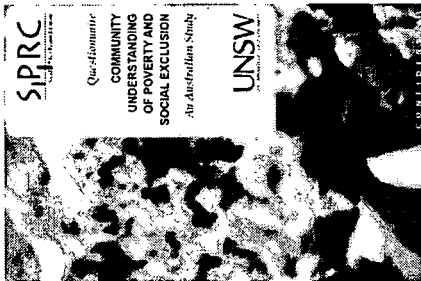
Key Concepts

SIPRC

- ◆ Poverty – people are living in poverty if their incomes are so inadequate as to preclude them from having an acceptable standard of living (Irish Combat Poverty Agency, *What Is Poverty?*)
- ◆ Deprivation – people are deprived when they face an enforced lack of socially perceived necessities (Mack and Lansley, *Poor Britain*)
- ◆ Social exclusion – 'An individual is socially excluded if he or she does not participate in key activities in the society in which he or she lives' (Burchardt, Le Grand and Piachaud, *Understanding Social Exclusion*)

Community Understanding of Poverty and Social Exclusion Survey (CUPSE)

SPRC



Topics Covered

- ◆ Standards of Living
- ◆ Overall Living Conditions
- ◆ Financial Resources
- ◆ Poverty
- ◆ Inequality
- ◆ About You

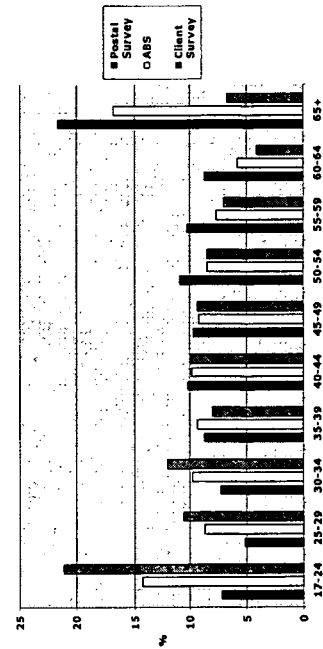
Survey Methodology

SPRC

- ◆ Survey sent to a random sample of 6,000 drawn from the Australian Electoral Roll in April 2006; responses accepted until early August
- ◆ Dillman method used to follow-up initial mail-out
- ◆ 2,704 completed surveys (response rate= 46.9%)
- ◆ Shorter survey completed by welfare agency clients when they accessed services (n = 673):
- ◆ Welfare services included: emergency relief; youth; refugee; older people; child and family support; long-term unemployed; homeless support

Age Structure of CUPSE Samples and Population

SPRC



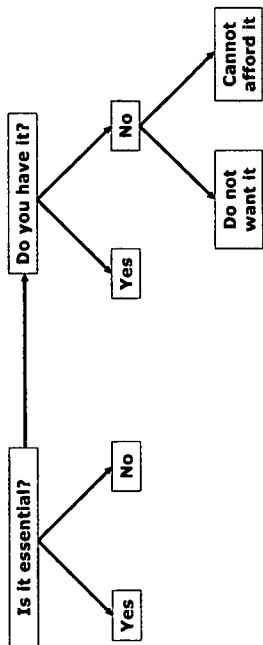
The Coverage of Essential Items

SPRC

- ◆ Information collected on 25 everyday items (a substantial meal at least once a day; a car; a mobile phone; up to \$500 in savings for an emergency)
- ◆ Plus 36 other items grouped into six domains:
 - ❖ accommodation and housing;
 - ❖ location and transport;
 - ❖ health and health care;
 - ❖ social and community participation;
 - ❖ care and support;
 - ❖ employment, education and skills

Defining Essentials and Identifying Who is Deprived

SIPRC



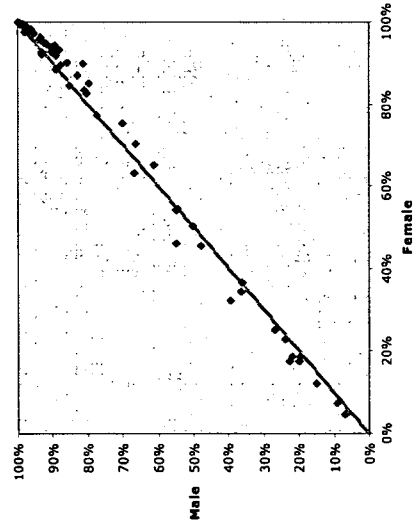
Ranked Percentage of Respondents Who Regard Each Item as Essential

SIPRC

| Rank | Item | % | Rank | Item | % |
|------|---|------|------|--|------|
| 1 | Medical treatment, if needed | 99.9 | 31 | Heating in at least one room of the house | 83.0 |
| 2 | Warm clothes and bedding if it's cold | 99.8 | 32 | Up to date schoolbooks & new school clothes for children | 83.0 |
| 3 | A substantial meal at least once a day | 99.6 | 33 | A public telephone | 88.1 |
| 4 | Able to buy medicines prescribed by a doctor | 99.4 | 34 | Child care for working parents | 86.0 |
| 5 | Access to a local doctor or hospital | 99.3 | 35 | Someone to give advice about an important life decision | 85.0 |
| 6 | Quality support services, when needed | 98.9 | 36 | A separate bed for each child | 84.7 |
| 7 | Access to a local doctor or hospital | 98.8 | 37 | Access to a car | 84.7 |
| 8 | To be treated with respect by other people | 98.4 | 38 | Up to 1500 in savings for an emergency | 82.7 |
| 9 | Aged care for frail older people | 98.2 | 39 | A washing machine | 81.8 |
| 10 | To be accepted by others for who you are | 98.0 | 40 | Home contents insurance | 77.4 |
| 11 | Ability to speak and read English | 97.9 | 41 | Present for family or friends at least once a year | 73.1 |
| 12 | Stress that are safe to walk in at night | 97.7 | 42 | Computer skills | 68.5 |
| 13 | Access to mental health services, if needed | 97.4 | 43 | Attended school until at least year 12 or equivalent | 64.6 |
| 14 | A decent and secure home | 97.3 | 44 | Comprehensive motor vehicle insurance | 61.4 |
| 15 | Access to a bank or building society | 96.6 | 45 | Needs holiday away from home each year | 54.7 |
| 16 | Someone to help when to play it | 94.6 | 46 | A TV | 50.4 |
| 17 | Someone to help when to play it | 94.6 | 47 | A car | 50.4 |
| 18 | Children can participate in school activities and outings | 94.7 | 48 | A separate bedroom for each child aged over 10 | 50.3 |
| 19 | Someone to help if you are sick & need help | 93.7 | 49 | Up to 12,000 in savings for an emergency | 46.3 |
| 20 | Good budgeting skills | 93.4 | 50 | A special meal once a week | 36.6 |
| 21 | A local park or play area for children | 93.4 | 51 | A spare room for guests to stay over | 35.7 |
| 22 | A hobby or leisure activity for children | 92.5 | 52 | A night out once a fortnight | 35.5 |
| 23 | Regular social contact with other people | 92.3 | 53 | A home computer | 35.8 |
| 24 | Regular social contact with other people | 92.3 | 54 | A car | 35.8 |
| 25 | Good public transport in the area | 91.2 | 55 | A clothes drier | 20.3 |
| 26 | Access to a health-care provider (Medicare) | 91.9 | 56 | Access to the internet at home | 19.8 |
| 27 | Secure locks on doors and windows | 91.8 | 57 | A printer | 19.1 |
| 28 | Furniture in reasonable condition | 91.2 | 58 | A DVD | 19.0 |
| 29 | Access to a bank or building society | 91.1 | 59 | An answering machine | 13.6 |
| 30 | Champ and mould free walls and floors | 90.2 | 60 | A dishwasher | 8.3 |
| 31 | Access to a bank or building society | 90.2 | 61 | A fax machine | 5.7 |

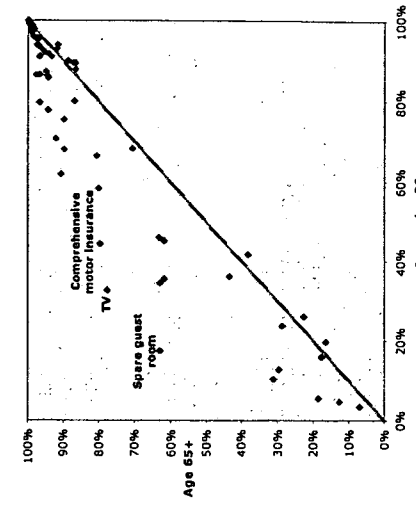
Essential Items - Comparing Female & Male Responses

SIPRC



Essential Items - Comparing Younger & Older Age Groups

SIPRC



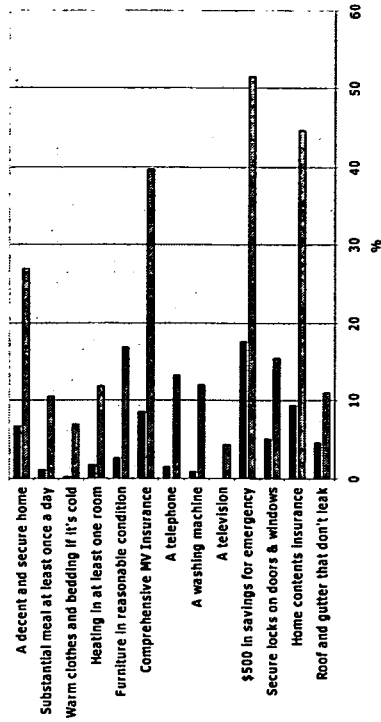
Essentials Items Used to Identify Deprivation

S₁PRC

| Rank | Item | % |
|------|--|------|
| 1 | Medical treatment, if needed | 95.9 |
| 2 | Warm clothes and bedding if it's cold | 95.8 |
| 3 | A substantial meal at least once a day | 95.6 |
| 4 | Able to buy medicines prescribed by a doctor | 95.4 |
| 5 | A decent and secure home | 97.3 |
| 6 | Children can participate in school outings | 94.8 |
| 7 | A yearly dental check-up for children | 94.7 |
| 8 | A hobby or leisure activity for children | 92.5 |
| 9 | Regular social contact with other people | 92.3 |
| 10 | A roof and gutters that do not leak | 92.3 |
| 11 | Secure locks on doors and windows | 91.2 |
| 12 | Secure locks on doors and windows | 91.2 |
| 13 | Heating in at least one room of the house | 89.0 |
| 14 | Up to date schoolbooks & new school children | 85.0 |
| 15 | A separate bed for each child | 84.7 |
| 16 | A telephone | 82.7 |
| 17 | Up to \$500 in savings for an emergency | 82.3 |
| 18 | A washing machine | 81.8 |
| 19 | Home contents insurance | 77.4 |
| 20 | Family or friends at least once a year | 77.4 |
| 21 | Computer skills | 68.5 |
| 22 | Comprehensive motor vehicle insurance | 63.4 |
| 23 | A weeks holiday away from home each year | 54.7 |
| 24 | A TV | 54.7 |
| 25 | Separate bedroom for each child over 10 | 50.3 |

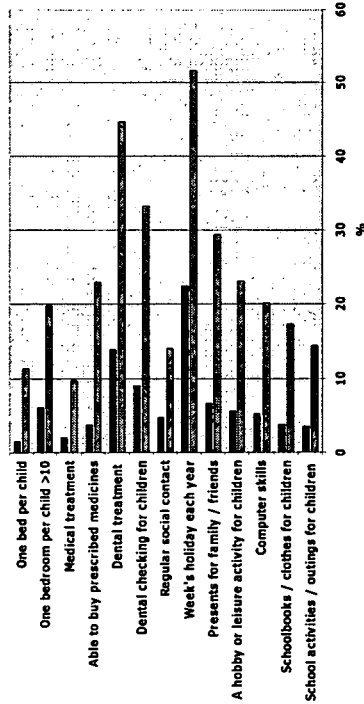
The Incidence of Each Deprivation Indicator

S₁PRC



The Incidence of Each Deprivation Indicator (continued)

S₁PRC



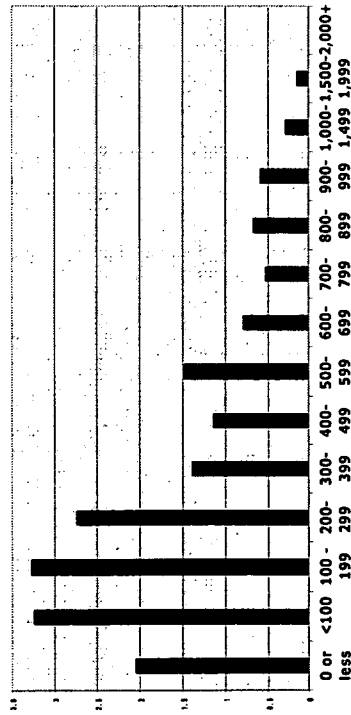
Deprivation Scores (number of essential items lacking because they cannot be afforded)

S₁PRC

| Deprivation Score | Postal Survey (unweighted, %) | Client Survey (weighted, %) |
|-------------------|-------------------------------|-----------------------------|
| 0 | 61.5 | 25.2 |
| 1 or more | 38.5 | 64.7 |
| 2 or more | 26.4 | 59.0 |
| 3 or more | 18.8 | 52.7 |
| 4 or more | 14.2 | 45.5 |
| 5 or more | 11.1 | 40.0 |
| 6 or more | 8.1 | 31.5 |
| 7 or more | 6.0 | 26.6 |
| 8 or more | 4.4 | 21.8 |
| 9 or more | 3.3 | 16.5 |
| 10 or more | 2.2 | 12.9 |

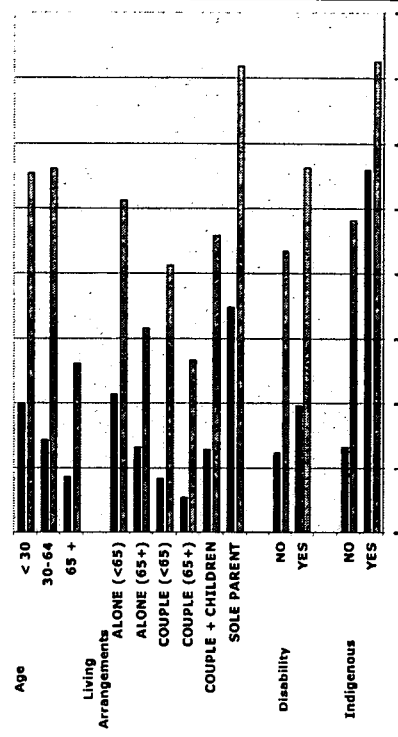
Deprivation Index (Mean Score) by Equivalised Gross Household Income (per week) – Postal Survey

SIPRC



Deprivation Index by Age, Living Arrangements, Disability and Indigeneity

SIPRC



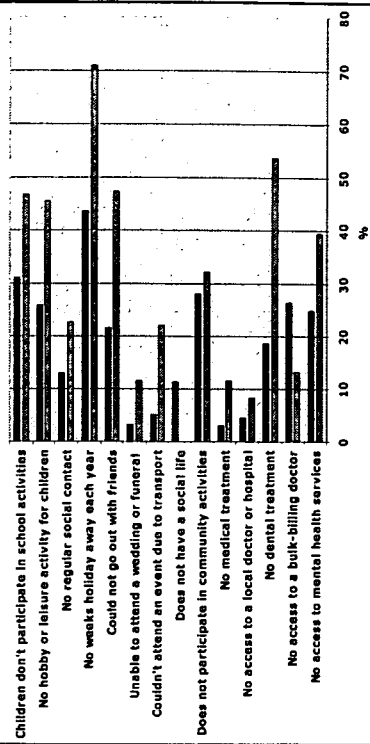
Social Exclusion Indicators

SIPRC

| Disengagement (9 indicators) | Service exclusion (10 indicators) | Economic exclusion (8 indicators) |
|--|---|---|
| No regular contact with other people | No medical treatment if needed | Does not have \$500 in savings for an emergency |
| No participation in community activities | No access to local doctor or hospital | Would have to pawn or sell things to raise \$2000 in a week |
| No social life | No access to dental treatment if needed | Could not raise \$2000 in a week |
| No annual holiday away | No access to a bulk-billing doctor | Does not own more than \$50000 in assets |
| Children do not participate in school outings/activities | No access to mental health services if needed | Currently unemployed and looking for work |
| No hobby/leisure activity for children | No child care for working parents | Lives in a jobless household |
| Couldn't get to an important event because of transport problems | No aged care for frail older people | Has not spent \$100 on a 'special treat' for self in last 12 months |
| Could not pay way with friends | No disability support if needed | Does not have enough to get by on |
| Unable to attend wedding or funeral | No access to bank or building society | |
| | Couldn't pay utility bills | |

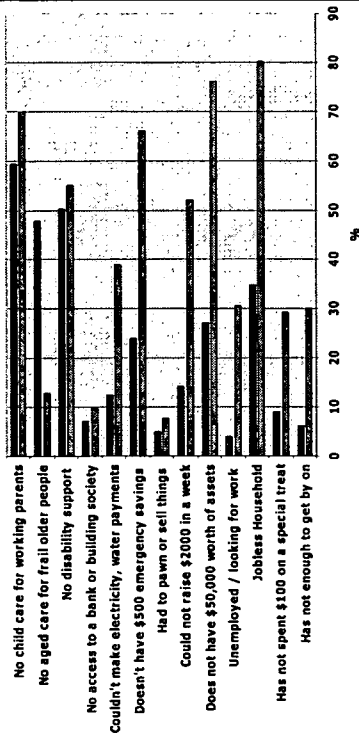
The Incidence of Different Forms of Social Exclusion

SIPRC



The Incidence of Different Forms of Social Exclusion (continued)

SIPRC



Indicators Used to Explore Overlaps

SIPRC

- ◆ Poverty: Gross income is less than 50% of median equivalent gross income (17.7%)
- ◆ Deprivation: Lacks 3 or more essentials because of affordability (18.8%)
- ◆ Social Exclusion: Excluded from 8 or more indicators (18.6%)
- ◆ Disengagement: Excluded from 4 or more indicators (13.4%)
- ◆ Service Exclusion: Excluded from 4 or more indicators (13.2%)
- ◆ Economic Exclusion: Excluded from 3 or more indicators (15.8%)

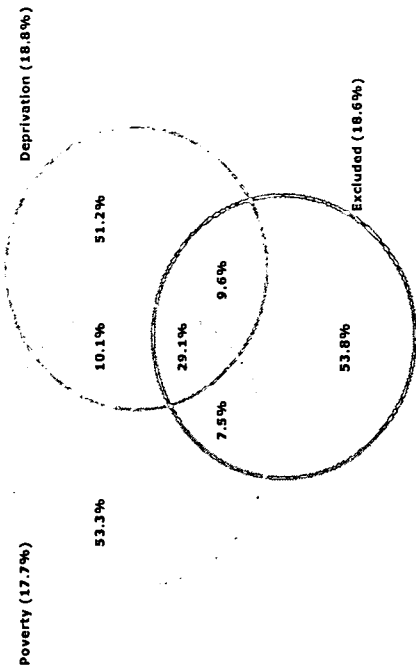
Overlaps Between Poverty, Deprivation and Exclusion

SIPRC

| | Postal sample (unweighted) | Client sample (weighted) |
|---|----------------------------|--------------------------|
| Poverty rate | 17.7 | 54.7 |
| % of poor who are also deprived | 39.2 | 61.1 |
| % of poor who are also excluded | 36.6 | 62.9 |
| % of poor also disengaged | 24.5 | 34.3 |
| % of poor also service excluded | 17.6 | 31.8 |
| % of poor also economically excluded | 37.8 | 82.5 |
| % of poor also deprived and disengaged | 29.1 | 53.7 |
| % of poor also deprived and disengaged and service excluded | 19.4 | 30.7 |
| % of poor also deprived and service economically excluded | 15.4 | 28.6 |
| % of poor also deprived and economically excluded | 27.0 | 57.8 |

An Overall Profile of Disadvantage

SIPRC



Main Conclusions

SPRC

- ◆ There is a high degree of consensus on which items are essential
- ◆ Of the 61 items included in the CUPSE survey, 48 were regarded as essential by a majority, and 30 received at least 90% support for being essential
- ◆ The three items where deprivation is highest in both samples are: \$500 in savings for an emergency; dental treatment; an annual week's holiday away
- ◆ Multiple deprivation is highest among: young people; sole parent families; the disabled; and ATSI
- ◆ Social exclusion is prevalent, particularly among the client sample
- ◆ Many Australians currently face exclusion from services
- ◆ The overlaps suggest that poverty, deprivation and exclusion are measuring different things

Reshaping Australian Egalitarianism in an Era of Prosperity

S,PRC

繁栄の時代におけるオーストラリア平等主義の変容

Peter Saunders
ピーター・サンダース

Social Policy Research Centre
University of New South Wales
Sydney 2052, AUSTRALIA
P.Saunders@unsw.edu.au

Context 背景 S,PRC

- ◆ Australian egalitarianism has 'shaped our democratic institutions, our definition of democracy and our definition of ourselves' (Elaine Thompson)
平等主義は、オーストラリアの民主主義の組織、定義、そして私たち自身の定義をも形作ってきた
- ◆ Public opinion in most affluent democracies displays 'strong egalitarian sentiments (but) ... is rarely enough if it is not mobilized' (John Myles)
- ◆ 格差な民主主義においては、「強い平等主義への同感(しかし)・・・それが十分に活用されることはほとんどない」
- ◆ Main focus is on **income distribution** – an important dimension of egalitarianism, and a focus of policy
- ◆ 注目するのは所得分配=平等主義の重要な次元であり、政策の対象
- ◆ But need to examine other dimensions of inequality, including how they relate to income
- ◆ しかし、他の次元における不平等も考慮する必要あり(それらがどのように所得に影響するのかを含めて)

Key Themes 主要テーマ S,PRC

1. **Background: Alternative redistributive strategies**
背景: もう一つの再分配政策
2. **What has happened? - Income (and wealth) distribution**
何がおこったか? 所得(と資産)分配
3. **[Why has it happened?]**
なぜ、そうなったか?
4. **Does it matter? - consequences of inequality**
格差は問題なのか? 不平等のもたらすもの
5. **Who Cares? Attitudes to inequality & redistribution**
誰が格差を問題視するか? 不平等と再分配に関する意識

Redistributive Strategies: Key Issues S,PRC

再分配政策: 課題

- ◆ **Primary income equality vs. redistribution**
当初所得における所得(不)平等 vs. 再分配
- ◆ **Income (cash) or in-kind provisions (non-cash)**
現金給付か現物給付か
- ◆ **Taxes or transfers?** 税か所得移転か?
- ◆ **Vertical, horizontal or life cycle?** 縦(世代間)、横(世代内)、またはライフサイクル?
- ◆ **Universal or selective (targeted)?** 普遍主義か選択主義か?
- ◆ **General (e.g. minimum wage policies) or specific (e.g. gender equality)?** 一般的(例:最低賃金)か特定の(例:男女平等)
- ◆ **Outcomes, opportunities, or both?** 結果か機会か両方か?

Australian Redistribution: the Neo-liberal Policy Response S,PRC

オーストラリアの再分配: 新リベラル政策の対応

| Traditional Approach | Emerging Pressures | The Policy Response |
|--|--|--|
| Centralised wage determination | Inflexibility in the labour market; high minimum wages and high (long-term) unemployment | <i>Work Choices</i> – towards a deregulation of the labour market, with little role for Trade Unions |
| Means-tested (targeted) benefit system | 'Welfare dependence' and escalating costs; high EMTRs (poverty traps) | Mutual Obligation – enforcing requirements as a condition of eligibility |
| Highly progressive income tax system | Limits to taxable capacity; high marginal tax rates? disincentive effects | Tax reform and the GST – large income tax cuts for 'the middle classes' |
| Home ownership and free health care | Restricted labour mobility; housing affordability problems and unsustainable health care cost explosions | Blame-shifting in housing; privatisation of health care financing (private health insurance rebate) |

Income Distribution as a Topic of Policy Interest S,PRC

政策課題としての所得分配

'本研究におけるOECD事務局の主な目的は、所得格差の度合いによって「よい国」と「わるい国」を選別することではない。もちろん、いくつかの加盟国は、他国に比べて自国が平等であるかについて気にしているが、このような考えは一般的な政策担当者の懸念事項とはいえない。... しかし、多くの政策担当者は、自国の所得分配がどのように変化しているかについては興味をもっている。そのため、OECD事務局は、資源分配のトレンドについて着目している。'(OECD Secretariat Note, 2006)

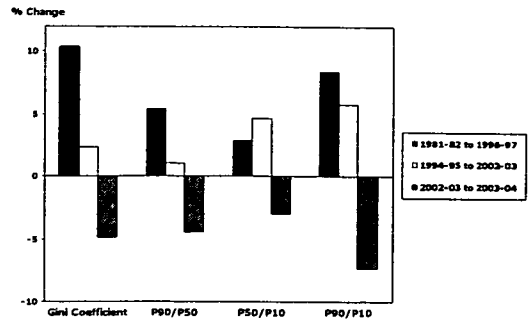
But Income Distribution Is Not All That Matters.... S1PRC

しかし、所得分配だけが重要なわけではない...

いくつかの物質的生活水準(well-being)についての測定を行う理由は、それらが個々人の消費者にとって重要であるからではなく、むしろ、それらが一般大衆や政策担当者にとって特に興味深いものであるからである。...我々は、政策が所得格差について何もするべきではないとっているのではない。むしろ、政策は二つの異なる目的をもつべきである：一つは、貧困削減であり、もう一つは、特定の物質的な困難の削減である。...この二つの目的は、実証的にも、概念的にも異なる。

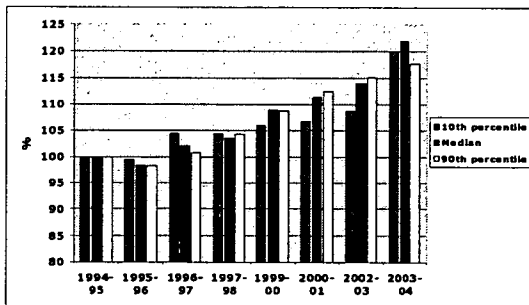
Recent Changes in Income Distribution in Australia
近年におけるオーストラリアの所得分配

S1PRC



Changes in Real Equivalent Disposable Income Since 1994-95 実質的 等価化処分所得の変化: 1994-95

S1PRC



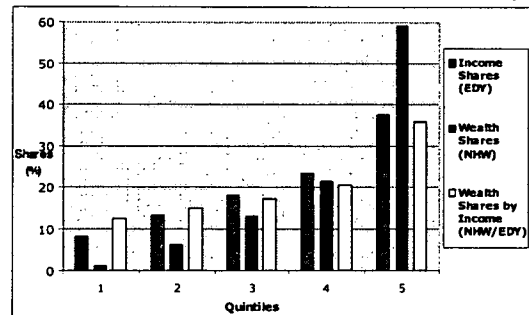
In Summary... 結論..

S1PRC

- ◆ Did income inequality decline in 2003-04? - Almost certainly yes
2003-4にかけて所得不平等は悪化したかーたぶん、そうである
- ◆ Did it decline by as much as the ABS data indicate? - Probably not
その悪化はABSデータが示すほどかーたぶん、違う
- ◆ What explains the decline? - Unclear, although the one-off family payment played an important role
どの要因が悪化を説明できるか? はっきりとはわからないものの、one-off family paymentが重要な鍵
- ◆ Is inequality back to the levels experienced in the mid 1990s? - Probably not, but series break(s) make it difficult to draw any firm conclusions
- ◆ 所得格差は、1990年代のレベルまで悪化したか? たぶん、違うが、データの違いによりはっきりとはいえない

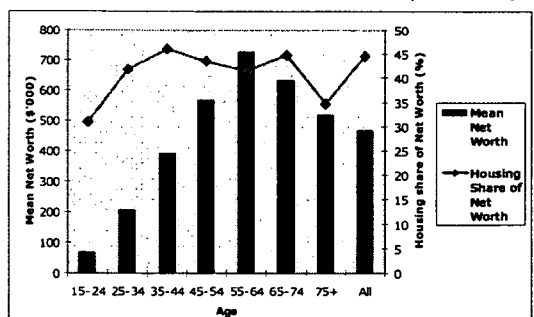
The Distribution of Income and Wealth, 2003-04
所得と資産格差: 2003-4

S1PRC



Size and Composition of Net Wealth by Age, 2003-04
ネット資産の規模と構成割合: 年齢層別

S1PRC



International Comparisons 国際比較

SPRC

- ◆ Using standardised micro-data (e.g. Luxembourg Income Study) or national informants produce estimates to a common template (OECD)標準化されたマイクロデータ(例:LIS)または各国が共通フォーマットを用いて情報手強(OECD)
- ◆ Focus here on recent OECD study (Australian results provided by SPRC based on HES 1988, 1993-94 and 1998-99)本報告では、最新のOECD研究を用いる(オーストラリアのデータはHES1988と1993-4をもとにSPRCが提供)
- ◆ Comparisons play a valuable role in establishing patterns of similarity and explaining differences in policies and outcomes 国際比較は、政策やその結果の違いや共通点を見いだすのに重要

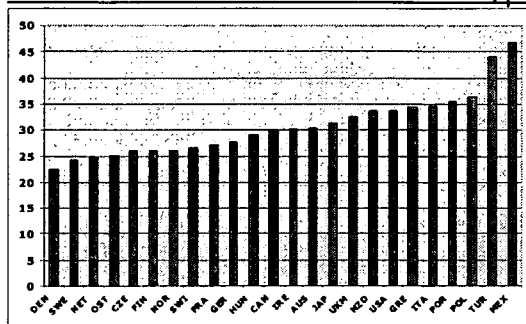
International Comparisons of Income Distribution (around 2000)
所得分配の国際比較 (2000年前後)

SPRC

| Country/Year | Overall inequality | | Earnings inequality | | Relative disposable incomes | |
|---------------------------|--------------------|---------|---------------------|--------------|-----------------------------|--------------|
| | Gini | P90/P10 | Bottom quintile | Top quintile | Children (0-17) | Aged (66-75) |
| <i>Anglo-Saxoa</i> | | | | | | |
| Australia (1999) | 0.305 | 4.1 | 1.6 | 44.0 | 87.6 | 67.0 |
| Canada (2000) | 0.301 | 3.8 | 4.3 | 40.6 | 89.2 | 94.7 |
| New Zealand (2001) | 0.337 | 4.4 | 3.2 | 42.5 | 85.6 | 79.5 |
| UK (2000) | 0.326 | 4.2 | 3.0 | 42.8 | 88.4 | 77.2 |
| US (2000) | 0.337 | 5.3 | 4.6 | 41.2 | 86.7 | 96.8 |
| <i>Continental Europe</i> | | | | | | |
| Belgium (1995) | 0.301 | 3.8 | 3.3 | 39.1 | 104.9 | 82.6 |
| France (2000) | 0.273 | 3.4 | 5.5 | 36.9 | 93.4 | 88.5 |
| Germany (2001) | 0.277 | 3.6 | 5.1 | 37.0 | 89.5 | 92.8 |
| Netherlands (2000) | 0.251 | 3.0 | 5.3 | 36.8 | 89.3 | 90.6 |
| <i>Scandinavia</i> | | | | | | |
| Denmark (2000) | 0.225 | 2.7 | 4.6 | 37.5 | 99.0 | 80.4 |
| Finland (2000) | 0.281 | 3.1 | 3.8 | 39.6 | 97.8 | 80.9 |
| Norway (2000) | 0.261 | 2.8 | 5.7 | 35.5 | 98.5 | 82.1 |
| Sweden (2000) | 0.243 | 2.8 | 5.0 | 39.1 | 98.3 | 88.3 |
| <i>Southern Europe</i> | | | | | | |
| Greece (1999) | 0.345 | 4.8 | - | - | 96.5 | 82.0 |
| Italy (2000) | 0.347 | 4.6 | 5.9 | 32.6 | 89.1 | 86.2 |
| Portugal (2000) | 0.356 | 5.0 | 4.9 | 46.9 | 89.0 | 79.5 |
| Spain (1995) | 0.303 | 4.1 | - | - | 92.6 | 85.9 |

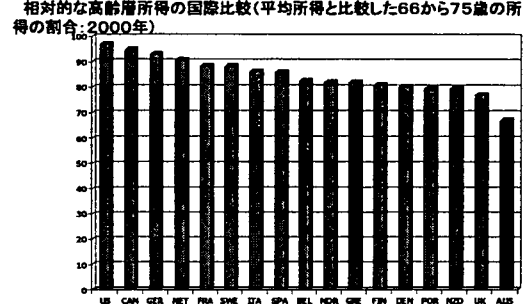
International Comparison of Income Distribution (Gini coefficients) 所得分配の国際比較 (ジニ係数)

SPRC



International Comparison of Relative Aged Incomes (aged 66-75 as a % of overall mean; circa 2000)
相対的な高齢層所得の国際比較 (平均所得と比較した66から75歳の所得の割合・2000年)

SPRC



The Social Consequences of Economic Inequality
所得不平等 (格差) の社会的影響

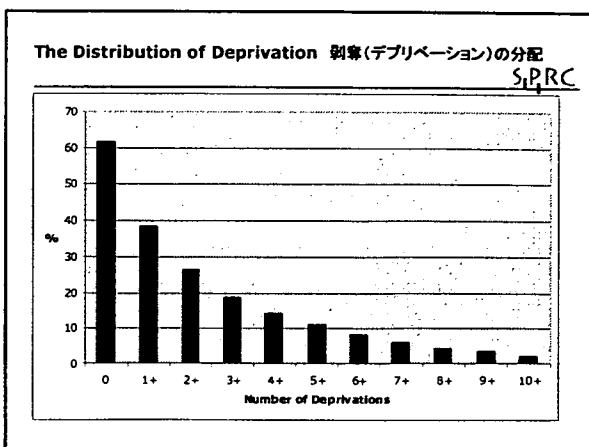
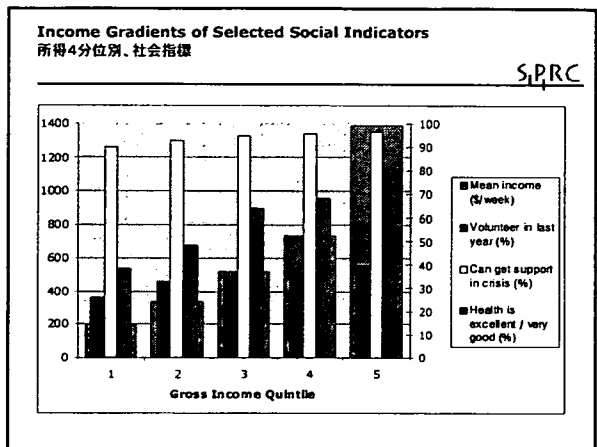
SPRC

- ◆ Important to demonstrate that these exist (egalitarian sentiments are not just a moral imperative) 不平等が存在することを示す意義
- ◆ Literature on social exclusion is opening up new perspectives on inequality in Europe (but not, so far, in Australia)ヨーロッパにおける社会的排除の研究は、新しい不平等の視点を提示している(しかし、オーストラリアでは今のところそこまでいたっていない)
- ◆ New ABS data provides some relevant information on income gradients of social indicators 新しいABSのデータは、社会指標の所得情報について新しい情報を提供している

Indicators of Social Participation and Networks by Household Income Quintile (percentages) 世帯所得5分位別、社会参加・ネットワークの指標

SPRC

| Dimension/Indicator | Gross income quintiles: | | | | | Q5/Q1 |
|---|-------------------------|-------------|------------|-------------|------------|-------|
| | First (Q1) | Second (Q2) | Third (Q3) | Fourth (Q4) | Fifth (Q5) | |
| Inclusion or Participation: | | | | | | |
| Undertook voluntary work in last year | 26.0 | 32.7 | 35.1 | 37.0 | 38.7 | 1.527 |
| Feels very safe/safe at home after dark | 74.4 | 79.9 | 81.4 | 83.6 | 87.1 | 1.171 |
| Has no difficulty getting to places needed | 91.4 | 95.3 | 96.7 | 98.0 | 98.9 | 1.082 |
| Social Networks: | | | | | | |
| Able to get support in times of crisis | 89.9 | 92.7 | 94.9 | 96.1 | 96.5 | 1.073 |
| Provides support to non-resident relatives | 20.2 | 24.0 | 25.4 | 29.4 | 33.9 | 1.678 |
| Able to raise \$2000 within a week | 70.0 | 79.3 | 87.0 | 92.8 | 97.4 | 1.391 |
| Functioning: | | | | | | |
| Participated in organised sport or physical recreation in last year | 18.7 | 27.8 | 34.8 | 39.7 | 46.3 | 2.476 |
| Self-assessed health - excellent/very good | 38.6 | 48.5 | 64.1 | 68.5 | 74.0 | 1.917 |
| Has access to a motor vehicle to drive | 67.6 | 79.3 | 88.4 | 92.6 | 95.4 | 1.411 |
| Mean equivalised gross weekly household income | 198 | 338 | 516 | 730 | 1389 | 7.015 |



Who Cares: Attitudes to Inequality 誰が格差を問題視するか？ 不平等と再分配に関する意識

SPRC

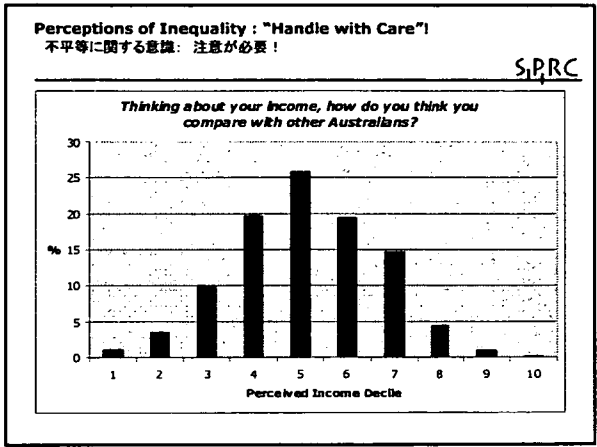
- Existing studies indicate widespread concern over income gaps between rich and poor (high and low incomes) 既存研究は、富裕層と貧困層(高所得と低所得)の所得格差についての懸念の声が広がっていることを示している
- Much lower levels of support for redistribution, particularly when this involves measures that produce 'losers' (しかし)再分配、特に「敗者」を生み出す対策については支持率が低い
- Need to relate concern over income gaps to conventional statistical measures of inequality 所得格差に関する懸念と、従来の所得不平等の指標とを結びつける必要
- Concern over inequality does not automatically imply support for redistribution, or for more redistribution 不平等に対する懸念は、再分配への支持、またはもっと多くの再分配への支持に即結びつくわけではない

Perceptions of Income Inequality Ranking, 1999 and 2006 所得不平等の認識：1999と2006

SPRC

Some people are rich, some are poor and others are somewhere in between. Thinking about your own INCOME, how do you think you compare with other Australians?

| Perceived decile | 1999 (n = 2,115) | 2006 (n = 2,634) |
|------------------|------------------|------------------|
| First (poorest) | 1.7 | 1.2 |
| Second | 4.0 | 3.4 |
| Third | 13.7 | 10.0 |
| Fourth | 23.4 | 19.7 |
| Fifth | 25.3 | 25.9 |
| Sixth | 16.0 | 19.4 |
| Seventh | 11.2 | 14.8 |
| Eighth | 3.8 | 4.5 |
| Ninth | 0.7 | 1.0 |
| Tenth (richest) | 0.3 | 0.2 |



Support for Income Redistribution by Perceptions of Existing Income Gaps (percentages; AuSSA 2005; n = 3,443) 所得格差に対する意識別の再分配への支持

SPRC

| The gap between those with high incomes and those with low incomes is... | | Government should redistribute income from those who are better-off to those who are less well-off | | | Total |
|--|---------------------------|--|---------------------------|-----------------------------|-------|
| | | Strongly agree/ Agree | Neither agree or disagree | Strongly disagree/ Disagree | |
| Much too large/ Too large | | 46.0 | 25.6 | 28.4 | 86.6 |
| | About right | 13.1 | 17.9 | 69.0 | 12.6 |
| | Much too small/ Too small | 36.0 | 16.0 | 48.0 | 0.7 |
| Total | | 41.8 | 24.6 | 33.6 | 100.0 |

Attitudes to Income Inequality, Australia 2006
(percentages; n = 2,643-2,665) 所得不平等に関する意識 SPRC

| | Strongly agree | Agree | Neither agree nor disagree | Disagree | Strongly disagree | Don't know |
|--|----------------|-------|----------------------------|----------|-------------------|------------|
| <i>The gap between rich and poor is too great and should be reduced</i> | 30.1 | 40.8 | 18.0 | 7.7 | 2.0 | 1.4 |
| <i>Incomes at the top are too high and should be reduced</i> | 37.6 | 31.9 | 13.6 | 11.9 | 3.4 | 1.7 |
| <i>Incomes at the bottom are too low and should be increased</i> | 40.4 | 43.4 | 9.4 | 4.7 | 0.8 | 1.3 |
| <i>Large differences in income are necessary to maintain Australia's economic prosperity</i> | 3.0 | 8.1 | 25.6 | 39.1 | 17.9 | 6.3 |
| <i>Australia is more equal than most other similar countries</i> | 4.6 | 30.3 | 32.8 | 13.8 | 3.4 | 15.1 |

Australian Attitudes to Inequality and Redistribution
(percentages; n = 2,515) 不平等と再分配に関する意識 SPRC

What do you think about the current level of economic inequality in Australia? (i.e. the differences between rich and poor and those in-between)

| | |
|--|------|
| Inequality is too high and should be reduced | 60.8 |
| Inequality is too high but cannot be reduced without harming the economy | 16.1 |
| Inequality is about right in current circumstances | 17.1 |
| Inequality is too low - more inequality creates more incentive to work | 6.0 |

Attitudes to Inequality by Actual Income and Perceived Change in Income 所得と所得の変化別、再分配に関する意識 SPRC

| | Actual (gross) income: | | | In income terms, over last 10 years has done: | | |
|---|------------------------|-----------------------|----------------|---|---------|----------------|
| | Low (<\$500) | Medium (\$500-\$1499) | High (>\$1500) | Very badly/badly | Average | Very well/well |
| Inequality is too high & should be reduced | 65.9 | 62.2 | 54.6 | 53.0 | 61.8 | 75.1 |
| Inequality is too high but cannot reduce it | 11.8 | 16.6 | 20.3 | 18.2 | 16.6 | 11.8 |
| Inequality is about right | 13.1 | 16.4 | 22.2 | 23.9 | 15.5 | 8.6 |
| Inequality is too low | 9.2 | 4.9 | 2.9 | 5.0 | 6.1 | 4.5 |
| Total | 27.7 | 47.3 | 24.9 | 30.1 | 51.0 | 18.9 |

In Conclusion 結論 SPRC

- ◆ Australian egalitarianism may be being reshaped under the Howard Government, but data prevent a clear assessment at this stage ハワード政権下においてオーストラリアの平等主義は寛容しているかもしれないが、現在のところデータによる裏付けはされていない
- ◆ Real income gains at the bottom (on average) has weakened the redistributive imperative (平均的な)低所得層の所得上昇は、再分配政策の必要性を弱めている
- ◆ Egalitarianism is not a uniquely Australian principle and the international evidence indicates that its achievements are middle-ranking, at best 平等主義はオーストラリアに限った概念ではなく、国際比較でみるとオーストラリアは中程度である
- ◆ Australia lags behind when it comes to examining the social consequences of economic inequality オーストラリアは、所得不平等の結果の研究においては遅れている
- ◆ Attitudes are important if they are mobilised, but there is evidence of an emerging 'reluctant anti-egalitarianism' 意識は重要ではあるが、「不本意な反平等主義」が出現しつつある